

## 只見町のユネスコエコパークの取り組み①

地域資源と伝統技術を継承・発展させる  
「自然首都・只見」 伝承産品

今回は、只見町が行っている地域振興に関するユネスコエコパークの取組を紹介します。

町の伝統的な生活文化、産業技術、工芸などは、地域の自然環境や天然資源の持続的な利活用モデルであり、只見ユネスコエコパークに認定された一つの大きな要件となっています。

これらを継承・発展させ、地域特性を活かし、さらなる産業化と地域ブランド化を推進することは、ユネスコエコパークの「人と自然との共生」という理念・目的を実現するばかりでなく、町の活性化にもつながるはずです。

そこで、町は、ユネスコエコパーク関連事業として地域の天然資源や農産物、伝統技術を使用した産品を「自然首都・只見」伝承産品」として認証し、ブランド化を進めています。これまでに認証された伝承産品は、マタタビなどの植物を利用した編み組細工、ブナ林の蜜源植物から得られたハチミツ、ブナの葉の染物、オオバクロモジの箸、ゼンマイ綿の手工芸品、あめよばれの飴、はぜかけ米など33品があり、町内23の事業者が関わっています。こうした産品は、既存の商品が認証されるものもあれば、新たに開発されたものもあります。最近では、途絶えてしまっていた文化であるゼンマイ綿を使った伝統の手毬（てんまり）がストラップなどの小物として復活しています。

「自然首都・只見」伝承産品」は、只見ユネスコエコパークの代表的なお土産物として町内施設で販売されています。伝承産品は単なるお土産物に留まらず、只見ユネスコエコパークの地域資源の伝統的な利用文化の継承と発展、自然環境や生活文化に関する情報の発信、地域内の経済循環に貢献し、只見ユネスコエコパークの顔とも呼べる存在です。



## ◀「自然首都・只見」伝承産品

はちみつ（トチノキ、クリ、オオバボダイジュ、オオウラジロノキ、ハリギリ）、凍み大根、ぜんまい綿毛糸の手工芸品、マタタビ・アケビなどの編み組細工、はぜかけ米、どぶろく、かじご焼き炭の消臭剤、あめ、こくわジャム、山なしジャム、くろもじの楊枝と箸、木工製品、干しわらび、ブナ染めの手工芸品、じゅうねん油、じゅうねん巻き、青豆みそ、クサカップ、赤石のアクセサリー、只見の手毬



▲ 認証された伝承産品につけられる  
ブランドロゴマーク

「自然首都・只見」伝承産品は、町内施設（ただみ・ブナと川のミュージアム、ふるさと館田子倉、季の郷湯ら里、只見町インフォメーションセンター など）で販売されています。